

令和3年度第2回香美市未来の森づくり委員会会議録（要旨）

1.開催日時、場所	<p>書面開催</p> <p>令和4年2月18日 資料等発送</p> <p>令和4年2月28日 意見徴収</p> <p>令和4年3月11日 事務局回答</p> <p>令和4年3月18日 全委員から承認</p>
2.出欠、傍聴者数	委員13名に書面で通知、意見聴取、承認
3.議題	<p>(1) 香美市森づくり構想について</p> <p>(2) 大工支援の庁内検討結果について</p> <p>(3) 香美市未来の森づくり委員会第2期（令和4～6年度）について</p> <p>(4) 令和4年度森林環境税活用事業及び令和3年度の実績見込みについて</p>
4.会議内容	<p>(1) 香美市森づくり構想について</p> <p>事務局から森づくり構想（最終案）について各委員に送付。以下、委員からの意見等。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定の人工林を目指すべき森としてPRしてはどうかとの意見 ・ 構想から進んだロードマップは作成ないのかとの質問 <p>（事務局回答）</p> <p>森づくり構想とは別に、市として森林整備を進めるうえでのロードマップのようなものは必要と考える。具体的な目標年度や整備内容等は、今後検討する。手入れが行き届いた山林については、森林整備を促進する上でPRできればよいと考える。</p> <p>(2) 大工支援の庁内検討結果について</p> <p>【事務局説明】</p> <p>令和3年11月9日、企画財政課、建設課、防災対策課、農林課で市内大工職の支援及び後継者育成にかかる市の方針について検討した。結論として、伝統産業ではないことや特定財源がないこと、民間で取り組むべき事案であることから市として支援することはできないが、高知県林業大学校へ大工育成コースの創設を要望することや大工の魅力を伝えるイベントを開催することにより、後継者の育成に取り組んで行くこととなった。方針に基づき、令和4年2月5日に「よってたかって生涯学習フォーラム」で、大工の方たちにご協力いただきミニハウスの組立を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のためイベントが中止になった。</p> <p>以下、委員からの意見等</p> <p>①市民が危機管理の意識をもって地元大工への仕事依頼を行う環境づくりが不可欠。教育委員会との連携による「減災教育で表彰される香美市づくり」を目指してはどうか。住宅カルテなど、防災活動に地元大工のメンテナンス仕事をつなげるような仕掛けなどが、人材育成の支援になると思う。</p> <p>②市の検討結果を残念に思う。大工の支援が難しいことは承知しているが、時間をかけて議論してもらいたかった。香美 ingWOOD の課題調査や品製材との協議も行ったが、中途半端に終わってしまった。この点で委員会の努力不足と感じる。また、林大へのコース創設要望の前に県立中村高等技術学校への支援、協力があるべきではないか。</p> <p>③山形県鶴岡市では、市内の山林と地元大工とその技術を保全するため、市立中学校をプレカットなしの、全て手刻みで建設している。参考にしてはどうか。年初に県商工労働部をメインに部局横断の検討会が立ち上がった</p>

たと聞いた。県の動向も注視しつつ、引き続き検討をお願いしたい。
④林業従事者への直接的支援の重要度は理解するが、防災の観点での大工育成についても提示した中で、「民間で取り組む事業」とされたのは残念に思う。

(事務局回答)

・①について

「かみんぐk i d s木の学校」や「よってたかって生涯学習フォーラム」は子どもたちに大工職を知ってもらう機会づくりとなる事業。どちらの事業もコロナ禍で中止となったが、来年度実施予定。まずは、既存の事業を実施し、軌道に乗せることを目指したいと考える。

・②について

「木材住宅支援事業」において、市内木材関連産業の活性化を目的に、林業、製材業及び建築業等の支援を行っており、現時点では、他産業との公平性の観点から、これ以上の支援は難しい。

大工の育成・支援に求める目的が多岐に渡ることから、農林課だけでの対応にも限界があり、状況の変化には行政の体制だけでなく、市民の理解、民間の動き等も必要であり、時間を要すると感じている。

・③について

今後の参考とする。

・④について

県への育成の場の創設要望や大工職を知ってもらうイベント開催等の取組を行っていく。

(3) 第2期委員案について

事務局から第2期の委員及び活動案について資料を送付。最初の議題として河畔林整備の事業化の検討を提案予定であることを説明。

以下、委員からの意見等

・森林環境税活用が求められる中、施策の実現には市が能動的に動ける体制作りが重要になると思う。

・森林整備のロードマップが必要と思う。2050年を目標にイメージと工程表を市民に提示してはどうか。

・昨今の輸入材確保が困難な状況から、国産材の需要が高まることで、間伐から皆伐への移行が進むと思われる。その場合、再造林(広葉樹含む)の担い手不足が懸念されるので、この課題について検討してもらいたい。

・河畔林については、かねてから物部川保全の観点から取り組みがされていると聞いている。是非目に見える成果が出るように取り組んでもらいたい。

・森づくり構想PR版のデザインに係る予算は確保されるのか。

(事務局回答)

・整備のロードマップについては、第2期委員会でも内容について協議したいと考える。

・再造林については、県の林業事務所管内単位で組織される再造林推進協議会が令和3年度から協議を開始している。また、令和4年度からの森林法の運用見直しにより、厳格な運用がされるようになる。

市では森林環境譲与税を活用し、令和3年度から再造林に関連する経費の補助メニューを新設して山林所有者の負担を軽減し、再造林を推進している。また、再造林を実際に担う林業事業者への担い手対策支援も、継続

して実施していき、造林の担い手が確保できるように努めたい。

・河畔林については、第2期委員会で対象面積の把握や、どのような整備方法が有効かを検討していきたい。

・まずは、広報やHPにより市民に向けたPRを行う。今後、観光や定住促進等とつながりを持ってPRする機会ができたときに、目的やターゲット等を明確にし、デザイン等も含めたPR方法を検討する。

(4) 令和4年度森林環境税活用事業及び令和3年度の実績見込みについて

事務局からR4年度予算に係る資料及びR3年度実績の資料を送付。

以下、委員からの意見等

・森林整備・林業担い手対策費の割合が大きいのは理解するが、木材利用普及PRへの予算が小さすぎるのではないかと。しっかり市民にPRすることで森づくり構想も市民の理解を得られるようになるのではないかと。

(事務局回答)

本市の森林率は約88%あり、森林整備に直接寄与する使途が期待されると考えるが、第1期で事業化したかみんぐKIDS木の学校や、かみんぐBABY木のギフトといった普及PR事業も実施している。これらの事業は、多額の費用を要する森林整備や担い手対策支援等の事業と比較して、予算額は少額だが、市民に直接PRできる事業なので、今後も継続して実施したい。

また、令和4年度には、市産材活用（新図書館の整備など）に約4,300万円の基金を活用する見込み。

令和6年度からは実際に国民から森林環境税として賦課徴収されるようになり、市としては対外的に説明でき、納得をいただける用途になるように、既存事業の点検や新規事業の検討をしていきたい。

(5) その他意見

・香美市の林業は、現在、市内の2森林組合が主体となっているが、香美市の広大な森林を整備するためには森林組合だけでは困難だと考える。担い手だけではなく、森林組合以外の自ら経営計画を樹立して森林施業を行える事業体、また、森林組合の仕事を請け負う事が出来る事業体を育成することが、香美市の森林整備には重要だと思う。

(事務局回答)

新たな事業体の育成は重要であると考え、香美市内で施業を希望し、意欲と能力のある事業体に手を挙げていただいている事業体に市内の施業に関わってもらえる機会の創設（例えば、将来的に市が直接、経営に適さない森林の整備を実施する際の指名競争入札に手を挙げてもらうなど）を検討していきたい。

以上